

眼科プログラム

【研修目標】

眼科専門医として必要な高度な知識、診断・治療技術を習得してもらいます。知識や技術はもちろんの事、医の倫理・チーム医療を実践すると共に、患者さんや御家族との信頼ある人間関係を構築します。全身疾患と眼科関連領域についても他科と連携しつつ眼科スペシャリストとしての診療の質を高めてもらいます。

【研修1年目】

1. 眼科検査はそのほとんどが医師、視能訓練士が行います。屈折・矯正・調節等の視力検査に始まり、眼位・眼球運動・視野・眼底造影・電気生理学的検査・涙液分泌検査等の検査は検査員が行いますが、検査欄のチェックだけで結果が得られるものではありません。まず種々の眼科検査の原理と技能を修得してもらいます。
2. 診察では実際に入院患者5名程度の主治医となり、眼科指導医の下で検査・治療計画を立て診療方法を習得します。細隙灯顕微鏡検査・眼底検査・隅角・眼圧測定に習熟し、様々な検査診断機器を使いこなせるようにします。この時に眼科救急疾患への対応も学び、後半から当直業務の他に関連病院に週1~2回半日研修をしていただき、外来診療を実際に行います。
3. 手術では手術用顕微鏡、手術器械のメカニズムを理解し、実際に一人でセットアップできるようにします。初期から内眼・外眼部手術の助手につきます。また、内眼手術のうち白内障では特に模擬眼を使用し、ウェットラボでの白内障手術トレーニングを充分行った後、年度後半から患者さんの手術を指導医のもと部分的に開始します。外眼部手術では眼瞼（内反症・眼瞼皮膚弛緩症）・結膜（霰粒腫・翼状片）などの手術を指導医の下行います。また眼底造影検査からその適応を判断し、指導医のもとレーザー治療を行います。
4. 毎週月曜日は手術症例を含めた症例検討会を行っていただきます。抄読会・大学院生を含めた研究発表会も毎週行います。火曜日は眼底造影カンファレンスに参加して、OCTも含め眼底疾患の読影力をつけてもらいます。水曜日は斜視カンファレンス、金曜日は病棟回診があり、積極的に参加して頂きます。

【研修2-4年目】

2~4年目までの間は原則として2年間はプログラムに参加する当科関連施設において、その施設に所属する眼科専門医の指導の下に臨床研修を行います。眼科指導医の助言を得ながら、それまで学んだ診察手技を生かし、今度は自ら検査をオーダーする側に立ち診察を進めていきます。3年間の研修を継続する事で外来診療を自立して行えるようになります。

外眼手術のみならず、内眼手術（実際には白内障に対する水晶体再建術（眼内レンズを挿入するもの）が主になりますが）を卒後3年目に引き続き指導医のもと施行してもらいます。それ以外には網膜剥離・硝子体手術・緑内障等の手術を実践してもらいます。最終的には白内障手術は必ず一人で完遂できる様になります。

大学院への入学も奨励し、支援します（大学院は後期研修3年目から入学可能です）。

【その他研修要件・4年目以降の体制・関係学会の内容等】

日本眼科学会・日本眼科医会に入会していただき、研修上有用と考えられる学会・集談会・症例検討会には積極的に参加・発表してもらいます。眼科指導医の下に担当した症例に関する症例報告や臨床研究に関する報告の学術論文を作成してもらいます。眼科に関する論文を単独または筆頭著者として1篇以上、及び学会報告を筆頭演者として2報告以上の発表、関与する眼科手術100例以上（外眼手術、内眼手術、およびレーザー手術が、それぞれ執刀者として20例以上を含む）、研修修了後の日本眼科学会専門医受験資格の最低条件です。

【主な関連病院】と【新専門医制度下における連携施設（予定）】

専門研修連携施設 A（日本眼科学会指導医もしくはそれに準ずる指導医が在籍し、年間手術症例数500件以上の病院）

宝塚市立病院、神戸掖済会病院、明和病院、協和会協立病院、あさざり病院

専門連携研修施設 B（日本眼科学会専門医が在籍し、地域医療を担う病院）

兵庫県立尼崎総合医療センター、神戸百年記念病院、JHC0 神戸中央病院、たつの市民病院、岡本病院、ツカザキ病院、胃の病因、作用協立病院、神戸赤十字病院、IHI 播磨病院、大澤病院

【指導医】

主任教授：五味 文（指導責任者）、教授：池田誠宏

准教授：木村亜紀子、講師：木村直樹、石川裕人、細谷友雅、増田明子、

助教：田片将士、中村由美子、一色佳彦、岩見久司、専門医：荒木敬士、岡本真奈

【研修統括者】

講師：池田尚弘

【問い合わせ先】

眼科 細谷 友雅

TEL: 0798-45-6462, E-mail: y-hoso@hyo-med.ac.jp